

## 研究協力のお願

札幌孝仁会記念病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

### 課題名

機械的血栓回収療法における Door to Puncture (D2P) に影響する看護的要因の検討

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2016年11月～2024年6月までの間に当院で機械的血栓回収療法を実施した患者さん。

### 2. 研究目的・方法

#### (1) 目的

当院では院外発症の急性虚血性脳卒中 (AIS: acute ischemic stroke) の患者さんに対して血栓回収療法が計画された場合、救急外来および血管造影室の看護師が患者の到着から治療終了まで継続して関わっており、状態把握や検査・治療準備、医療行為の介助を担っています。これらの役割の中で看護師の判断や行動が来院から医師によるシース挿入までの時間 (D2P: Door to Puncture) の構成要素において重要な位置を示していると考えられます。看護師の関与や判断・行動といった看護要因と D2P との関連性を明らかにすることで、看護実践の改善や標準化に貢献することを目的としています。

#### (2) 対象及び方法

対象：当院において2016年11月から2024年6月までの間に機械的血栓回収療法を実施した患者さん。  
方法：来院から画像検査までの時間 (Door to Imaging time: DIT)、画像診断室からIVR室に入室するまでの時間 (Imaging to IV: IIT)、IVR室入室してから医師がシースを挿入するまでの時間 (IVR to puncture time: IPT)、D2Pを計測しました。診療録からデータを収集、Microsoft Excel 2016 MSO (ver. 2511 ビルド 16.0.19426.20218) 64ビットを用いて集計しました。統計学的解析には相関関係を調べるためにピアソンの相関係数、スピアマンの順位相関係数を用いました。

### 研究期間

倫理審査委員会承認後病院長許可日から2026年5月(予定)

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

情報：機械的血栓回収療法における医師や看護師の記録

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院 血管造影室・救急外来 氏名：大川 尚修

住所：063-0052 札幌市西区宮の沢2条1丁目16-1 電話番号：011-665-0020

研究責任者：

所属：社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院

血管造影室・救急外来 研究責任者：大川 尚修

その他、本研究の計画、実施、発表に関して可能性のある利益相反（conflict of interest）はありません。